
酔っぱらい(パート1)

むしん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

酔っぱらい（パート1）

【コード】

N1108E

【作者名】

むしん

【あらすじ】

酔っぱらいが電車で寝過ごしたが、同じ状況の男を発見し、タクシー代を儲けてしまう

第1話

私は通勤にJRを利用している

何処にでもいる平凡な男である

趣味は

お酒を飲みながら人と話をする事

後はパチンコぐらいである

お酒の好きな私は、会社の帰りに、ほとんど毎日飲んで帰る

2時間程度ならいいのだが

3時間、4時間と飲んでいると、眠くなってくる

駅までは、同僚と一緒になので、問題ないのだが、

電車に乗って座った途端

睡魔に襲われる

気が付くと、駅員が

「お客様終点ですから降りてください」という

慌てて電車から飛び降り

ホームの時刻表を見ると帰りの電車がな

やむなくタクシーで帰る

タクシー代15000円

痛い出費である

二度とこんなバカな事はしないと心に誓う

2日後またまた同じ時刻の同じ電車で終点まで

またやってしまった

自己嫌悪に陥る

「俺は何て馬鹿なんだろう」

タクシー乗り場に向かうと

目の前に私と同じような人物発見

ラッキーかも

「どうしました」と声を掛ける

相手の男も私と同じ状況

帰る方向も私と同じ

やはりラッキーである

料金を割り勘にする約束をし

同じタクシーに乗り込む

話を聞くと一週間前も乗り越したらしい

酒飲みは同じような行動パターンだとつくづく思う

互いに慰めあっているうちに相手の男の家に到着

料金は5000円

相手の男は私に5000円を渡し降りていく

なんの違和感もなく私はお金を受けとる

自宅に着いた途端バタンキュウ

翌朝昨日のことを思い出すと割り勘になってない

もうちがった

やはりラッキーだった

でも相手の男に悪いことをしたと反省する

酔っぱらいは困ったものだ

チャンチャン

駅員さんが

「終点ですから降りてください」よこし

慌てし

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1108e/>

酔っぱらい（パート1）

2010年12月10日21時15分発行